3 城下町　宇都宮

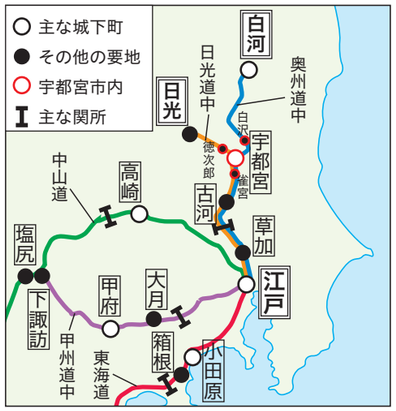
↑❶宇都宮城址

わかるかな？

五街道のうち
宇都宮を通っていた街道は
どれでしょう。

① 日光道中
② 奥州道中
③ 中山道
④ 東海道
⑤ 甲州道中

↑❷徳川秀忠像（松平西福寺蔵）
関ヶ原の戦いの直前に宇都宮城に在陣していた。



↑❸日光道中と奥州道中

江戸時代の宇都宮

関ヶ原の戦い後，徳川家康が江戸に幕府を開くと，宇都宮は譜代大名[1]が統治するようになります。本多正純が城主となると，宇都宮城と城下の整備を行い，宇都宮を近世的な城下町へと造り替えます。この時の整備による町の区割りが，現在の宇都宮のまちの形の基になっています。

宇都宮は，江戸を起点とした五街道のうち，「奥州道中」と「日光道中」の二つの道の分岐する場所[3]であり，徳川将軍や参勤交代の大名の宿泊所として，多くの人や物が行き交い，ますます発展していきました。

ここでは，江戸時代の宇都宮について見ていきましょう。

宇都宮城址公園には，宇都宮城の一部が復元されているよ。

宇都宮城は，何度も将軍が泊まったんだって。どうしてかな？

江戸時代に整備されて，今も残っている道はあるのかな？

動画を見てみよう！

学習問題
江戸時代の宇都宮は，どんなまちであったのだろうか。

幕府の重要拠点　宇都宮城

江戸幕府は，宇都宮が東北地方の上杉氏や伊達氏等の外様大名[2]を抑える上で，また二つの街道が行き交う軍事・交通上の重要な地点であることから，宇都宮城に譜代大名を配置し，宇都宮藩がこの地域を治めることになります。ここでは，その拠点となった宇都宮城について見ていきましょう。

1 譜代大名による宇都宮藩の統治

宇都宮藩の藩主は，譜代大名である奥平氏，本多氏，松平氏，阿部氏，戸田氏が務めます。中でも奥平家昌[4]は徳川家康の外孫に当たる人物であり，その後の本多正純は家康の重臣，戸田忠真・忠温は老中職に就くなど，有力な大名が宇都宮を治めていました。

2 将軍が日光社参の際に泊まる城　宇都宮城

城主は，お城の中心である本丸に居住するのが一般的ですが，宇都宮城は，将軍家が日光社参[3]をする際の宿泊場所の一つで，本丸内に設けられた御成御殿に将軍家が宿泊しました。このため，宇都宮城主は二の丸に御殿を設け，居住していました。８代将軍吉宗の社参以降は，本丸の御成御殿は使われなくなり，将軍が日光に社参するたびに二の丸御殿に新たな御座所[4]が増設されました。

将軍の滞在中には，将軍と宇都宮城主の主従関係を再確認するための様々な儀式が行われました。

城下のにぎわい

宇都宮は，徳川将軍の日光社参や，東北の大名の参勤交代をする際に宿泊する場所であったことから交通上重要な地点でした。

ここでは，現在の宇都宮につながる，城下の町並みや当時のまちのにぎわいの様子について見ていきましょう。

1 本多正純による城下町の整備[6]

本多正純は，宇都宮城の東側を通っていた奥州への道を，城の西側に付け替え，現在の伝馬町で日光道中と奥州道中に分岐させました。この道の付け替えにあわせて寺や町屋等の移動がありました。寺は城を取り囲むようにその多くが街道沿いに配され，工人や商人たちの町は主に城の北側に，西側には武家屋敷が配されました。江戸時代に建築されたお寺や，当時使われていた町名などが今も残り，宇都宮城下の名残を見つけることができます。（➡p.39）

↑❹奥平家昌像（中津城提供）

↑❺宇都宮城イラスト

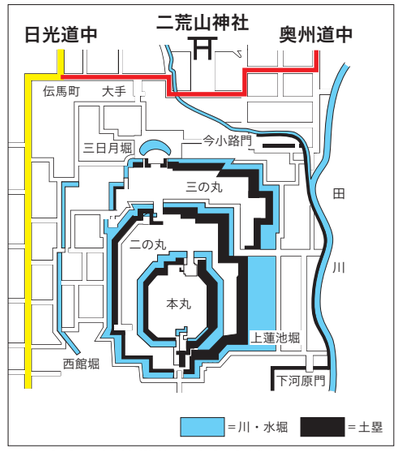
ことば

❶**譜代大名**
関ヶ原の戦いの以前から徳川氏に従ってきた１万石以上の領地を与えられた大名。

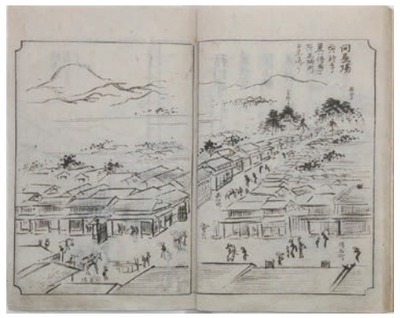
❷**外様大名**
関ヶ原の戦いの後にあたらしく徳川氏に従った大名。

❸**日光社参**
将軍家が徳川家康の墓がある日光東照宮へお参りに行くこと。

❹**御座所**
将軍が宿泊するところ。



↑❻本多正純整備後の宇都宮城下



↑❶宇陽略記（日光道中と奥州道中の追分の地）（個人蔵）

ことば

❶**本陣**
大名や幕府役人の宿泊所

❷**脇本陣**
本陣の予備として使われていた宿泊所

❸**旅籠**
旅人を宿泊させることを生業とした家

❹**荒物**
家庭で使う生活雑貨等

❺**紺屋**
染め物屋

2 大名や幕府の役人も利用した宿場

日光道中・奥州道中沿いには宿場が設けられていました。現在の宇都宮市内には，宇都宮宿のほかに雀宮宿，徳次郎宿，白沢宿がありました（➡p.37）。

宿場には本陣❶，脇本陣❷のほか旅籠❸などが置かれ，公用の人の宿泊や物の輸送を担っていました。これらを円滑に行うために各宿には人足と馬の常備が義務付けられていました。

これらの宿場は仙台伊達家や会津松平家などの大名が参勤交代をする際に利用していました。

宇都宮市内には，宇都宮宿の前の宿場として雀宮宿，日光道中の次の宿場である徳次郎宿，奥州道中の次の宿場である白沢宿がありました。現在も宿場の面影が残っているところがあります。

3 にぎわう宿場，栄える商家

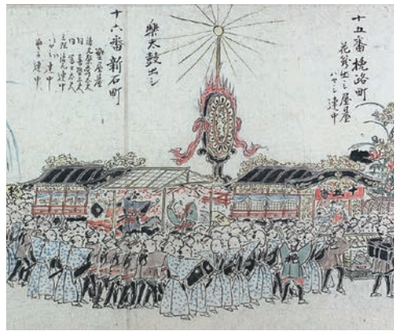
二つの街道が行き交っていた宇都宮は，城下町であるとともに宿場町としても大変にぎわっていました。街道の分岐点付近❶（現在の伝馬町付近）には，大名の参勤交代などの際に宿泊する本陣や旅籠が設けられ，たくさんの人が行き交いました（➡p.39）。

また，穀物・酒・醤油・塩・呉服・古着・荒物❹などの日常品を扱う商人や，大工・紺屋❺・鍛冶屋などの職人が住んでいました（➡p.40）。この中には，江戸時代後期に豪商となって江戸に出店していくものも現れました。

4 町人たちが盛り上げた二荒山神社のまつり❷

今も続く，二荒山神社の菊水祭は，1672（寛文12）年から始まったとされています。39の各町から，山車，屋台など多彩な出し物が登場する盛大な祭りで，江戸の山王祭や神田祭とともに，そのにぎわいぶりは全国的に知られていました。

今も，当時使用されていた，山車や屋台が市内に残っており，城址公園のまちあるき情報館でも，その姿を見ることができます。



↑❷二荒山祭礼絵巻（個人蔵）

↑❸復活した火焔太鼓山車と桃太郎山車

江戸時代の菊水祭は，とてもにぎわっており，江戸の山王祭や神田祭とともに，祭りの番付でもベスト10に名を連ねていたんだ（「諸国御祭礼番付」より）。

新石町の火焔太鼓山車❸や，南新町の桃太郎山車❸など，復元された山車が，菊水祭に合わせて市内をめぐってたよ。

戊辰戦争の戦火に見舞われた宇都宮城下

幕末，ペリー来航により日本中が混迷し，尊王攘夷運動❻が活発化する中，幕府の力が弱まり，1867（慶応3）年に徳川慶喜が朝廷に政権を返上し，江戸幕府が終わりをつげます。

1868年の戊辰戦争で，旧幕府軍は，日光を目指し北上を続け，宇都宮藩も戦いに巻きこまれることになりました。

この戦いによって，宇都宮城や二荒山神社をはじめ，城下の大半が焼失してしまいました。❹

↑❹戊辰戦争宇都宮城攻略の図（光明寺蔵）

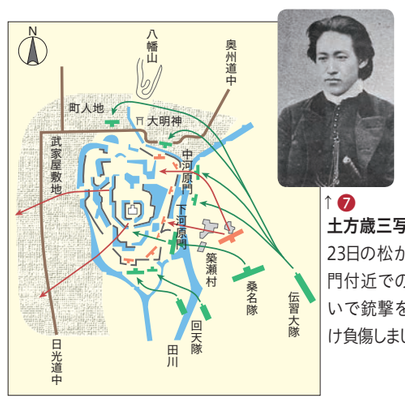
ことば

❻**尊王攘夷**
尊王は天皇を尊ぶこと，攘夷は外国を追い払うこと。

1 宇都宮の戊辰戦争　旧幕府軍による宇都宮城占領❺

1868年4月19日，新撰組の土方歳三❼などに率いられた旧幕府軍は，堀や土塁が少なく防備の薄い宇都宮城の南東部から攻めこみました。新政府側についた宇都宮藩は旧幕府軍に押され，二の丸館に火を放ち退却します。その火は，南東からの強い風を受け燃え広がり，城下のほとんどが焼失しました。

この戦いの指揮を執っていた戸田忠恕は，わずかな人数で城を脱出し，宇都宮藩と姻戚関係にあった館林藩へ退却しました。



↑❼土方歳三写真
23日の松が峰門付近での戦いで銃撃を受け負傷しました。

↑❺宇都宮城攻防戦　4月19日
旧幕府軍が宇都宮城を攻め込む。

旧幕府軍
新政府軍

2 宇都宮の戊辰戦争　新政府軍による宇都宮城奪還❻

1868年4月23日に，宇都宮城を占拠した旧幕府軍に対し，薩摩・大垣藩を主力とする新政府軍が城の西側にあたる六道辻を突破して，宇都宮城に迫り，松が峰門付近で戦となります。

夕刻には，新政府軍の総攻撃により，旧幕府軍は一斉に退却し，日光に向かったため，宇都宮の攻防は幕を閉じました。

↑❻宇都宮城攻防戦　4月23日
新政府軍が宇都宮城を奪還するために攻め込む。

3 最後の藩主 ── 戸田忠友

最後の藩主である戸田忠友❽は，明治維新後に宇都宮藩知事となり，宇都宮の復興に取り組みました。その後，1871（明治4）年の廃藩置県により，その任が解かれました。

→❽最後の藩主 戸田忠友
（栃木県立文書館蔵）

まとめる　ひろげる

宇都宮は，江戸時代に，本多正純による道の付け替えや城下整備により，近世的な城下町につくりかえられました。これまでの二荒山神社の門前町としての役割に加え，奥州道中と日光道中の分岐点の宿場町，そして商人や職人が暮らす商業のまちとして発展してきました。

歴代宇都宮城主（江戸時代以降）

江戸時代の宇都宮城主

江戸時代になると，宇都宮城の城主は幕府が譜代大名の中から任命しました。

代	当主名	石高	就任	退任	主なできごと
1	奥平家昌（おくだいら いえまさ）	10 万石	1601	1614	
2	奥平忠昌（おくだいら ただまさ）	10 万石	1614	1619	徳川秀忠が初の日光社参
3	本多正純（ほんだ まさずみ）	15.5 万石	1619	1622	改易
4	奥平忠昌（おくだいら ただまさ）	11 万石	1622	1668	
5	奥平昌能（おくだいら まさよし）	11 万石	1668	1668	興禅寺で刃傷事件が起きる
6	松平忠弘（まつだいら ただひろ）	15 万石	1668	1681	江戸の浄瑠璃坂で仇討事件が起きる
7	本多忠泰（ほんだ ただひら）	11 万石	1681	1685	
8	奥平昌章（おくだいら まさあき）	10 万石	1685	1695	
9	奥平昌成（おくだいら まさしげ）	9 万石	1695	1697	
10	阿部正邦（あべ まさくに）	10 万石	1697	1710	
11	戸田忠真（とだ ただざね）	7.78 万石	1710	1729	老中に就任。徳川吉宗が日光社参
12	戸田忠余（とだ ただみ）	7.78 万石	1729	1746	
13	戸田忠盈（とだ ただみつ）	7.78 万石	1746	1749	
14	松平忠祇（まつだいら ただまさ）	6.59 万石	1749	1762	
15	松平忠恕（まつだいら ただひろ）	7.78 万石	1762	1774	籾摺騒動が起こる
16	戸田忠寛（とだ ただとお）	7.78 万石	1774	1798	
17	戸田忠翰（とだ ただなか）	7.78 万石	1798	1811	
18	戸田忠延（とだ ただのぶ）	7.78 万石	1811	1823	
19	戸田忠温（とだ ただはる）	7.78 万石	1823	1851	老中に就任
20	戸田忠明（とだ ただあき）	7.78 万石	1851	1856	菊池教中が新田開発を行う
21	戸田忠恕（とだ ただゆき）	7.78 万石	1856	1865	山陵修補事業に取り組む
22	戸田忠友（とだ ただとも）	6.78 万石	1865	1871	明治新政府のもと藩知事となる

※転封 … 幕府の命令で大名の領地を他に移すこと。当時の史料には「国替」「所替」の言葉が使われた。

赤穂浪士が参考にしたとされる浄瑠璃坂の仇討ち

1668（寛文8）年 2月18日に奥平忠昌が亡くなり，3月2日に興禅寺（宇都宮市今泉3丁目）で法要が行われました。その際，奥平氏の家臣である奥平隼人と奥平内蔵允が口論となり，双方が刀を抜き切り合いとなりました。内蔵允は傷を負い，帰宅後憤りのあまり自決してしまいます。

この事件に対し，幕府は争いの原因が内蔵允にあるとし，その息子源八を改易とし，一方の隼人はおとがめなしとしました。この決定を不服とした源八と彼に同情した四十数名が脱藩し，仇討ちを行おうと隼人を追跡し，4年後に江戸の浄瑠璃坂で討ち果たしました。

この事件の30年後に「忠臣蔵」で名高い赤穂浪士の吉良邸討ち入りがあります。赤穂浪士たちは，仇討を行うに際し，浄瑠璃坂の仇討を参考にしたのではといわれています。

交通の要衝の地 宇都宮

1 将軍家の日光社参

将軍家の日光社参は19回を数え，多くが家康の命日にあたる4月17日に行われる大祭に合わせて行われました。

江戸城を出発した社参の一行は，岩槻城，古河城，宇都宮城にそれぞれ宿泊し，4日目に日光に到着しました。帰路は，17世紀までは壬生経由で帰りましたが，吉宗以降は帰りも日光道中を通りました。❶

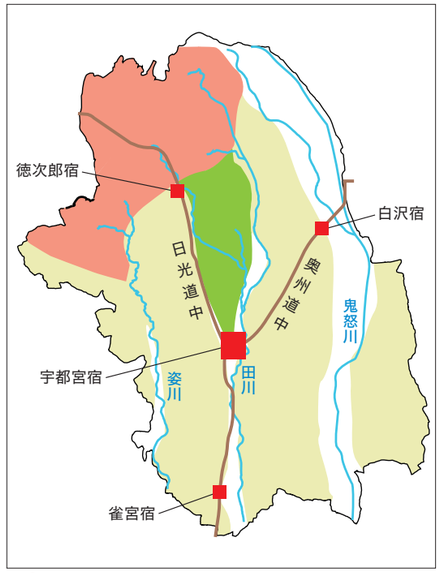
その規模は，8代将軍吉宗の場合で見ると，行列の人数が約13万人，人足が約22万人の大行列で，幕府の権威を示す大規模なものでした。

↑❶日光社参の経路

2 宇都宮宿周辺の宿

宇都宮市内には，宇都宮宿以外に，雀宮宿，白沢宿，徳次郎宿がありました。❷

雀宮宿は，宇都宮宿の一つ前の江戸よりの宿です。白沢宿と徳次郎宿は宇都宮宿の次で，奥州道中沿いが白沢宿，日光道中が徳次郎宿となります。徳次郎宿は上徳次郎宿，中徳次郎宿，下徳次郎宿に分かれ，三つの宿と数えられる場合と，一つの宿として数えられる場合があります。



↑❷日光道中・奥州道中沿いの宿場

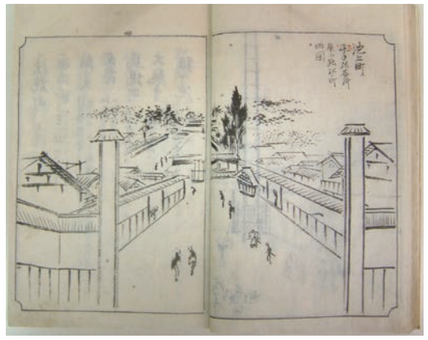
3 街道沿いの一里塚

一里塚❸は，旅行者の目印として主要な街道沿いに1里（約4km）ごとに設置された塚です。道路の両脇に2基1対で造られました。宇都宮市内にも日光街道沿いに高谷林一里塚等が残っています。

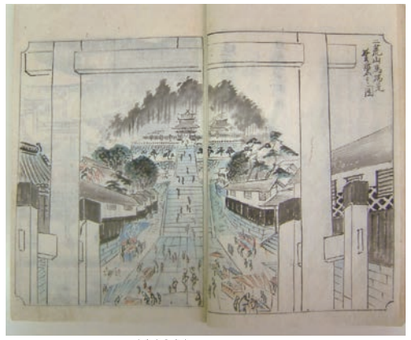
↑❸一里塚

4 まちの様子が描かれた宇陽略記

↑❹日光道中の松並木



↑❺池上町から大手門にいたる木戸



↑❻鳥居の奥の二荒山神社

江戸時代の宇都宮の街並み

↑❶宇都宮御城内外絵図

宇都宮御城内外絵図❶

幕末の宇都宮城と城下の様子を描いたと推定される絵図です。

宇都宮城は本丸を中心に二の丸・三の丸があり，さらにその外側には家臣団の屋敷を取り囲む外堀が巡っています。正門に当たる大手門は奥州道中がとおる北側に位置します。

本丸には５つの櫓と２つの門があり，内部にはある時期まで将軍が日光社参する際の御成御殿が建てられていました。そのため，城主の住居と藩の政務を行う建物は二の丸にありました。

城の西側から北側にかけて日光道中と奥州道中が通っていました。赤く塗られた部分は寺院の敷地です。特に二荒山神社の周辺には多くの寺院が集まっています。灰色に塗られた部分は町屋部分で，日光道中・奥州道中沿いに家屋が立ち並ぶ様子がうかがえます。

本多正純と釣り天井伝説

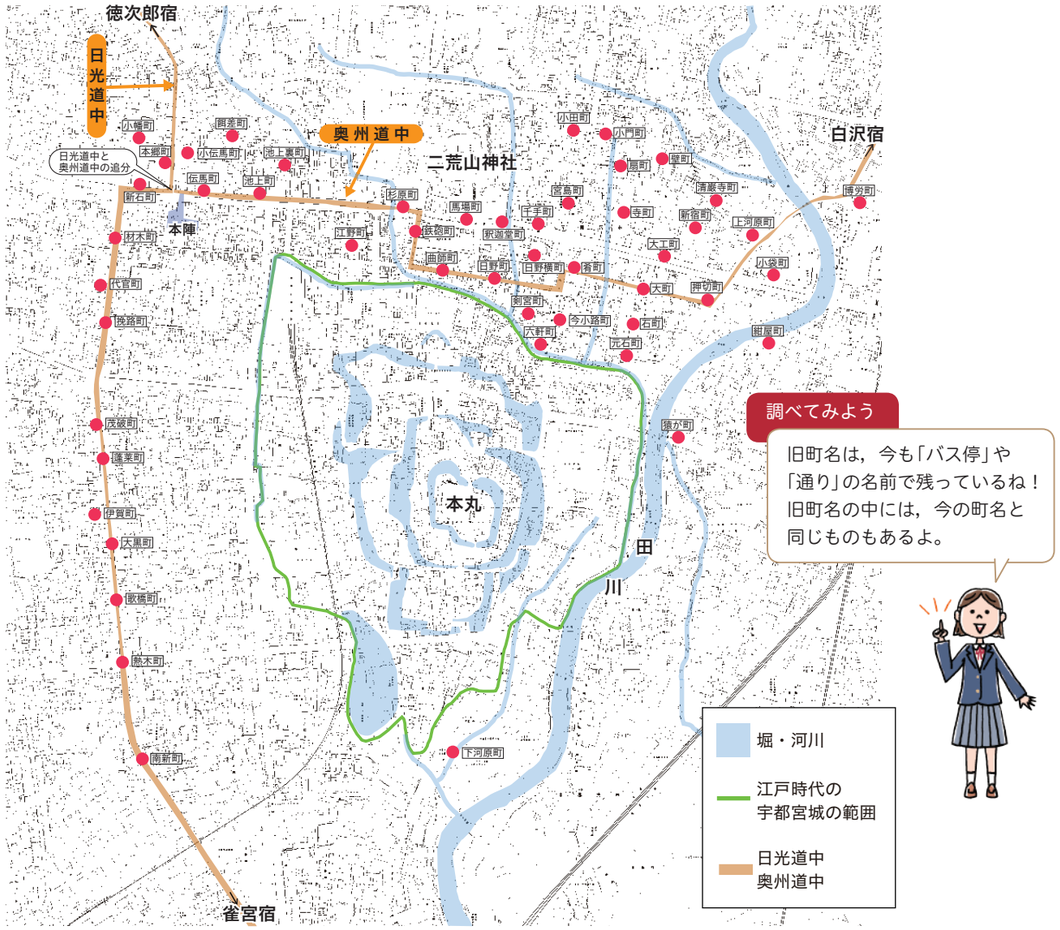
本多正純は徳川家康の側近として手腕を振るった人物で，1619（元和５）年に宇都宮城主となりますが，1622年に突然改易されてしまいます。この出来事に対し，将軍暗殺計画があったのではないかなど様々な憶測が流れ，その後「宇都宮釣天井事件」という伝説が生まれ，講談や歌舞伎などで取り上げられるようになりました。

←❷『宇都宮騒動記』
（栃木県立図書館蔵）

動画を見てみよう！

「宇都宮の歴史と文化財」書籍「うつのみやの民話」の中でも紹介されています。

江戸時代の旧町名



↑❸江戸時代の宇都宮城と旧町名

旧町名から江戸時代の町並みを想像してみよう！

地名の由来を探ってみると，その土地の歴史を知る手掛かりとなります。江戸時代の町名をみると，その場所がどんな役割の場所であったか，あるいはどんな人たちが住んでいたかがわかります。右の事例を参考に江戸時代の宇都宮城下の町並みを想像してみましょう。

また，町中には，旧町名を表す表示板が立っています。探してみましょう。

【参考文献】『宇都宮の軌跡』

←❹旧町名を表す表示板

●伝馬町
江戸時代に幕府が主要道中の宿駅ごとに荷物を運ぶ人馬（伝馬）を常備させた。宇都宮では日光道中と奥州道中の分岐点に置かれ，問屋や本陣，旅籠が軒を並べていた。

●日野町
蒲生秀行が宇都宮城主になった時に，蒲生氏の出身地である近江国日野の商人を住まわせたことに由来。

●曲師町
江戸時代の初め頃に，檜や杉の薄い板を曲げて容器などを作る職人である曲物師が移住してきたことに由来。

商業が栄えるまち 宇都宮

宇都宮の城下には，様々な職種の商人や職人が居住し，活動をしていました。伝馬町に旅籠が多いように，町によっては業種に偏りが見られます。城下図と併せて江戸時代の宇都宮城下がどのようなまちであったか考えてみましょう。

■宇都宮町内別の主な商人・職人数（寛政期）

	古着	荒物屋	小間物屋	酒造屋	穀問屋	油屋	薬種屋	肴屋	八百屋	旅籠屋	足袋屋	大工	材木屋	桶屋
宮島町	12	3	1	3				1				2		
寺町	15													
日野町		1	2				2					1		
大町		1					1	11	3		1	3		
上河原町		18	1	5		1					1	1	1	
押切町		4	1									1	1	
石町		1		1	21	1								
池上町	2	1	1	2						16		2		1
伝馬町			4	3			1	4	1	15	1		1	
小伝馬町						1						2		
杉原町	3											1		1
鉄砲町														

※1 小間物問屋…日用品などこまごました物　※2 肴屋…魚屋　※3 旅籠屋…旅人を宿泊させることを生業とした家

山陵修補と蒲生君平

1 江戸時代の三奇人の一人 ── 蒲生君平❶

江戸時代後期の儒学者で，1768（明和5）年に新石町の油商福田家に生まれました。祖先が蒲生氏郷であるとの家伝から，17歳のときに蒲生姓を名乗るようになります。

著書には，歴代天皇陵が荒廃していることを嘆き，それらを調査してまとめた『山陵志』や朝廷の官職についてまとめた『職官志』などがあります。

高山彦九郎，林子平とともに「寛政の三奇人」と言われています。

↑❶蒲生君平像（蒲生神社蔵）

2 宇都宮藩と山陵修補

戸田家の重臣であった県六石は，幕府の宇都宮藩に対する不信感を払しょくするために，蒲生君平が『山陵志』を著していることもあり，家老の間瀬忠至に山陵修補❶を提案します。そして，この案が採用され，宇都宮藩による山陵修補事業が始まります。

間瀬は，幕府から山陵修補事業の許可が出ると，その準備のため六石を京都に向かわせる一方，自身は，江戸日本橋の豪商川村伝左衛門（➡p.43❺）を訪問し，山陵修補のための資金調達を行います。

その後，1865（慶応元）年12月までの三年間で，百を超える天皇陵の修補が行われました。

↑❷成務天皇陵図

ことば
❶山陵修補
天皇や皇后などの墓を補修すること。

藩を支えた農村の暮らし

村に住む農民が多くを占める江戸時代は，農民の負担した年貢が藩の経済を支えていました。宇都宮藩も同様で，ここでは，当時の農村の暮らしについて見ていきましょう。

1 年貢負担の軽減を求めた百姓一揆 ── 籾摺騒動（18世紀中頃）

宇都宮城主の松平氏が，籾から玄米に仕上げる割合を変えることにより増税をしたことに対し，農民が結集して年貢負担の軽減を求めた百姓一揆です。この騒動は藩により鎮圧され，その責任者である鈴木源之丞❸をはじめとする数名が処刑されました。

このころの農村を取り巻く環境は，肥料の値段の高騰や天候不順による凶作など厳しいものがありました。

↑❸鈴木源之丞の供養塔（御田長島町）

2 財政難を打開するための新田開発

幕末になると宇都宮藩は慢性的な財政難を打開するために新田開発に取り組みました。県六石は宇都宮の豪商佐野屋の菊池教中❹の協力を仰ぎ，鬼怒川沿岸の荒廃地を開墾し，大規模な新田を開発しました。

←❹菊池教中
（栃木県立博物館蔵）

地元の大谷石を使った建物の登場

先人の知恵と工夫

江戸時代になると，地元で産出する大谷石を建物の建材として使うようになります。特に蔵の壁に大谷石を貼る石蔵が造られるようになります。大谷石は加工しやすく耐火性に優れていることから，大切なものを収納する蔵に使うようになったと考えられます。

今でも，宇都宮市内には江戸時代に建てられた大谷石蔵が残っています。

↑❺渡邊家住宅（大谷町）
西側（写真左）の大谷石の蔵は，1769（明和6）年頃に建てられたと考えられる。

大谷石の蔵には，壁に貼る「張り石」と石材を積む「積み石」があります。
詳しくはp.75を見てみよう。

4 戦災を生き抜いたまち 宇都宮

↑❶宇都宮空襲後の写真（1945年）（二荒山神社から 南東方面）
※カラー化：東京大学　渡邉英徳研究室

わかるかな？

陸軍第14師団が，満州から帰還する際に宇都宮に持ちこまれたものはなんでしょう？

① ギョーザ

② シューマイ

③ ワンタン

ことば

❶師団
軍隊の部隊編成単位の一つ。

↑❷県庁移転祝賀会（菊地愛山「県庁新設祝賀の図」）
1884（明治17）年に栃木から宇都宮へ県庁が移転された際の様子が描かれています。祝賀会は前日から，各町から山車・屋台などが引き出され，おはやしが鳴り響き，昼にも関わらず花火が打ちあげられ，県庁移転が盛大に祝われました。

←❸三島通庸
1883年に栃木県令に赴任し，県庁を栃木から宇都宮に移しました。また，大通りもこのとき整備されました。

戊辰戦争後の宇都宮

1868（慶応4）年にはじまった戊辰戦争では，宇都宮城と宇都宮城下の多くが焼失してしまいました。その後復興し，1884（明治17）年に宇都宮に県庁が移転❷されると，県都として発展していくことになります。さらに，1904（明治37）年に日露戦争が始まると，市内にも陸軍の師団❶誘致運動が起こり，第14師団の駐屯が決定しました。後には軍需工場が進出するなど，軍関係の施設が整備されていきました。

太平洋戦争中は，宇都宮も空襲の標的となり，数度の空襲を受けました。その中でも，1945（昭和20）年7月12日の空襲では大きな被害を受け，東武宇都宮駅から国鉄宇都宮駅までのあたりは，焼野原となってしまいました❶。戦後，宇都宮はいち早く復興を成し遂げました。その後発展を続け，今の宇都宮へつながっていきます。

ここでは，明治以降の宇都宮の発展について見ていきましょう。

明治初期に，鬼怒川沿いに大きな工場があったそうよ。何の工場だったのかな？

宇都宮空襲では，どれくらいの人が犠牲になったのだろう？

宇都宮は，どうやって戦後復興したのだろう？

動画を見てみよう！

学習問題
明治維新後，宇都宮はどのように発展していったのだろうか。

世紀	B.C.	A.D.1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
	縄文	弥生			古墳			飛鳥	奈良	平安				鎌倉	室町（南北朝）		戦国	江戸（安土桃山）		明治	昭和（大正）	平成 令和

宇都宮藩から宇都宮市へ

戊辰戦争後，文明開化の波を受け，宇都宮は近代的なまちに生まれ変わっていきます。ここでは，明治維新後の発展について見ていきましょう。

1 県都宇都宮の誕生

1871（明治4）年の廃藩置県によりできた宇都宮県は，1873年には栃木県と合併になり（➡p.46），県庁が栃木におかれました。その後，宇都宮への県庁移転運動を経て，1884年には宇都宮が県庁所在地となりました。1896年には，市制施行により「宇都宮市」が誕生し，名実ともに栃木県の政治・文化・経済の中心地となりました。

2 宇都宮の近代工業のはじまり

明治維新後，宇都宮にも近代的な工場が造られます。1871（明治4）年に創業を開始した石井村の大嶋商舎❹（➡p.46）は，県内ではじめての西洋式器械製糸工場で，近代工業の先がけとなりました。日露戦争後の好況期には，製紙工場や製粉工場などができ，生産も飛躍的に増加していきました。

3 日露戦争と陸軍第14師団の誘致

1904（明治37）年に日露戦争が起こると，軍事力の強化が求められ，1905年，宇都宮の有志から，陸軍の師団誘致の運動が起こりました。翌年，県議会で県が駐屯地用地を寄付する旨の意見書が提出され，1907年9月軍令で第14師団の駐屯が決定し，市内各地に関連施設が建設されました❻（➡p.47）。

4 明治から大正にかけての宇都宮

1885（明治18）年に，大宮～宇都宮間の鉄道が完成して，宇都宮駅が開業し，翌年には宇都宮～黒磯間，1890年には宇都宮～日光間が開通するなど，鉄道網が整備されていきました。

また，道路網が整備され，1917（大正6）年には乗り合いバスが営業を開始するなど，宇都宮の街並みが整備されてきました。この頃，二荒山神社南の「バンバ」広場に常設の屋台店「仲見世」ができ，バンバと呼ばれる繁華街になりました❼。

1899（明治32）年に宇都宮電灯会社が設立され，市内にはじめて電灯がともされました。さらに，1911年には，宇都宮瓦斯会社が設立され，ガス供給が開始されます。1913（大正2）年には，上下水道整備工事が開始され，1916年に給水が開始されると，市民生活は大きく向上しました。

↑❹明治期の西洋式製糸工場　大嶋商舎
大嶋商舎は，1871（明治4）年に川村伝左衛門（迂叟）が石井村に設立した宇都宮最初の近代的な大規模工場でした。
（栃木県立博物館蔵）

↑❺川村伝左衛門（迂叟）（個人蔵）
江戸日本橋で材木商を営んだ，幕府御用達の商人。宇都宮藩の山陵修補事業に資金を提供しました。明治時代には，石井村に西洋式の器械製糸工場の大嶋商舎を設立しました。
➡p.46

↑❻第14師団司令部正面（宇都宮市立図書館蔵）
師団司令部は，現在の国立病院機構栃木医療センターに置かれました。

↑❼大正時代の二荒山神社前の大通り

↑❶主要都市を空襲するB-29爆撃機

↑❷東武宇都宮駅周辺
中央の建物が，東武宇都宮駅のホームと電車です。

↑❸オリオン通りから見た県庁
真ん中の建物が、現在の昭和館である県庁です。

↑❹いちはやく復興したバンバ仲見世

↑❺空襲後の大いちょう

↑❻現在の大いちょう

太平洋戦争時の宇都宮空襲

陸軍の第14師団が駐屯し，陸軍の飛行場や中島飛行機生産工場など，多数の軍需工場(➡p.48)があったことから，アメリカ軍は宇都宮を重要な都市の一つであると考えていました。1945(昭和20)年3月10日の東京大空襲の後は，地方都市に対する空襲が本格的に始まりました。そして，宇都宮は7月12日午後11時10分に115機のB-29爆撃機❶により空襲を受けました。

1 宇都宮空襲の被害

7月12日の空襲では，当時の宇都宮市の約半分に焼夷弾が落とされ(➡p.50)，大きな被害を受けました。❷❸ 雨の中，夜間に行われた空襲のため，多くの市民が逃げ遅れてしまいました。空襲は，13日の1時39分までの間，約2時間30分も続きました。この空襲で，620人以上の方が亡くなり，1128人以上の方が負傷，9173戸以上の家屋が焼夷弾によって燃えてしまいました。実際はもっと多くの被害があったと考えられています。また，宇都宮市周辺にも広く焼夷弾が落下し，焼失家屋も数十軒に上っています。

7月12日以外にも，宇都宮は戦闘機による空襲を受け55名以上の方が亡くなっています。宇都宮における空襲全体の死亡者数は，675名以上になります。

戦後発展するまち宇都宮

宇都宮空襲で市街地の大半は消失しましたが，戦後いち早く戦災復興土地区画整理を進め，全国でもまれに見る復興をとげました。1949年には，バンバ仲見世が復興し❹，映画館が立ち並び，にぎわいました。

ここでは，戦後発展する様子を見ていきましょう。

1 戦後復興のシンボル 大いちょう

空襲で現在の中央1丁目にある大いちょうも被害を受け，黒こげになり枯れてしまったと思われましたが❺，翌年には新芽をふき，青々とした葉を茂らせました。空襲にも負けなかった大いちょうの姿は，戦後の宇都宮市民を勇気づけ，宇都宮の戦後復興のシンボルとなり，今でも市民に親しまれています❻。

世紀 B.C. A.D.1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21
縄文 弥生 古墳 飛鳥 奈良 平安 鎌倉 南北朝 室町 戦国 安土桃山 江戸 明治 大正 昭和 平成 令和

2 戦後復興する宇都宮

空襲による戦後復興は，がれき処理と清掃，水道の修復，罹災者に対する住宅の確保が最優先で行われました。市内にあった多くの14師団施設は，私立学校等(➡p.55)に姿を変えました。

1946年になると，戦災復興院の指導を受け，復興計画を策定して，計画のもと復興事業が行われました。❼ 1947年になると，一般住宅をはじめ多くの建物が建てられ，復興率は98％となり，わずか2年でほぼ復旧し，全国一早い復興都市とも言われました。

さらに1957年までに，周辺の1町10か村を合併し，大きく市域を広げ，人口も増えました。

↑❼終戦から1年後の二荒山神社付近

3 軍都から工業都市へ

戦災復興過程で都市機能を整備した宇都宮市は，1960年になると宇都宮工業団地(平出工業団地)を造成し❽，工業都市へ発展していくことになりました。平出の平地林を開発し，約70社の工場の誘致を実現しました。1970年代になると，清原に宇都宮清原工業団地，瑞穂野に瑞穂野工業団地の造成が始まり，多数の企業があつまり，工業都市として発展していきました。

↑❽造成中の宇都宮工業団地

4 宇都宮の発展

工業都市へ発展していく中で，道路では東北自動車道や北関東自動車道，鉄道では東北新幹線が開通し，交通網が整備されていきました。宇都宮は交通の要地として，また物流の拠点として発展していきます。さらに，宇都宮環状線(通称宮環)が開通し，ますます便利になっていきました。

1996(平成8)年には，市制100周年となり，ろまんちっく村，子どものもり公園，宇都宮美術館など，様々な施設がつくられました。さらに，2006年には，上河内町と河内町が合併し，2016年には，市制120周年を迎えました。❾

↑❾現在の宇都宮市の中心部(東部から西方を望む)

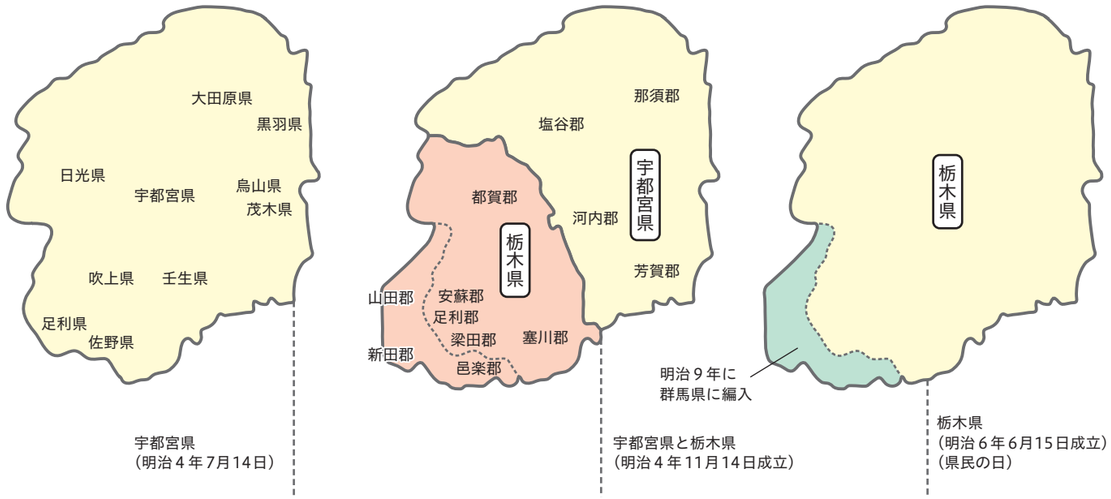
まとめる ひろげる

戊辰戦争により，宇都宮城及び城下の大半が焼失し，明治以降に県都として，そして軍都として発展していった宇都宮ですが，宇都宮空襲により，またも市街地の大半が焼け野原となってしまいました。軍用地は，学校や官用地として再利用され，軍都としての面影は次第に薄れていきました。そして戦後，工業団地を造成し，多くの企業を誘致し，工業都市として発展していくことになりました。2016年に市制120周年をむかえ，ますます発展を続けています。戦時下の生活や空襲，戦後の復興や発展について気になったことを調べてみよう。

廃藩置県と県民の日

栃木県の変遷

1871（明治４）年７月の廃藩置県の結果，各藩の領域がそのまま県となり，当時栃木県内には10県ありました。同年11月になると，「栃木県」と「宇都宮県」の２県にまとめられました。1873年６月15日に「宇都宮県」が廃止され，「栃木県」がその領域を管轄することになり，ほぼ現在の県域となりました。この６月15日が，現在「県民の日」となっています。



↑❶廃藩置県後の栃木県のうつりかわり

宇都宮の産業革命と大嶋商舎

日本の産業革命は，繊維工業を中心とする軽工業からはじまりました。宇都宮においても，全国でもかなり早い時期にあたる，1871（明治４）年に，石井村に川村伝左衛門（迂叟）により製糸工場の大嶋商舎がつくられました。❷川村は，土地を開拓して桑園をつくり，育蚕室を建てました。製糸工場を新設し，鬼怒川の水を利用して，工場の操業を開始しました。良質の製品を生産し，殖産興業の模範工場であることから，1879年には前アメリカ大統領グラント，大隈重信や岩倉具視などが視察に訪れていました。

その後，1890年に三井家の手に渡り，1915年，機器類を群馬県の富岡製糸場（世界文化遺産）に移して，廃業となりました。

↑❷大嶋商舎での作業の様子

陸軍第14師団の駐屯

陸軍第14師団とは？

陸軍第14師団は，日露戦争後の軍備の増強に迫られ，新たに設けられた４師団のうちの一つになります。師団誘致運動の後，1907（明治40）年９月軍令により，宇都宮が第14師団の駐屯地となりました。

1908年３月，歩兵❶第66連隊が宝木（現宇都宮中央女子高等学校❹）の新兵営に入り，師団司令部は同じく宝木（現国立病院機構栃木医療センター），師団長官舎は桜（現宇都宮地方合同庁舎）に，それぞれ施設が設けられました。騎兵❷第18連隊・輜重兵❸第14大隊は駒生（現作新学院高等学校・中等部・小学部・幼稚園）に，野砲兵❹第20連隊は鶴田（現文星芸術大学附属中・高等学校，宇都宮短期大学附属中・高等学校），歩兵第59連隊は宝木（現とちぎ福祉プラザ付近）と，次々と陸軍の駐留が始まりました。❺野砲兵第20連隊から師団司令部を結ぶ「軍道」が整備され，道路の両側には桜が植えられ，「軍道の桜」❻と呼ばれました（現桜通り）。

第14師団は1919（大正８）年には，シベリア出兵に動員され，1927（昭和２）年には満州旅順へ出兵します。

1932年には満州に移駐❸し，満州事変，上海事変，南京攻略など各地を転戦しました。1937年に再び動員令により，中国戦線に投入され，1940年には，満州へ永久駐屯することになりました。

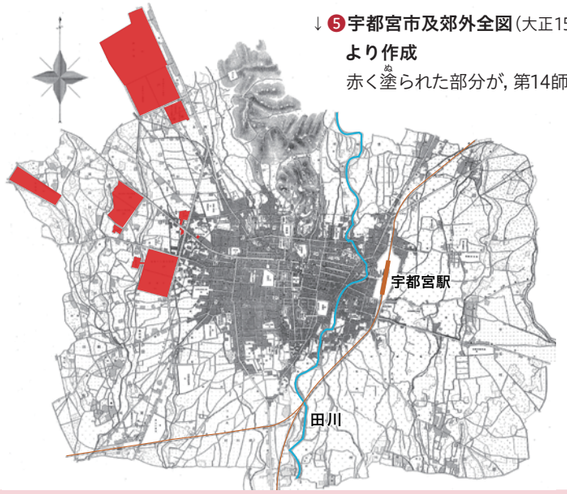
その後，1943年に第14師団は赤道近くの，パラオ諸島に派遣されましたが，そこで多くの兵士が犠牲となりました。アメリカ軍の侵攻によりパラオ諸島に残った部隊も，ほとんどが全滅してしまいました。

ことば

❶歩兵	戦場を徒走で戦闘する兵士。
❷騎兵	馬などの動物に騎乗して戦闘する兵士。
❸輜重兵	軍隊で使う補給物資の輸送を任務とする兵士。
❹野砲兵	大砲をとりあつかう兵士。

↑❸第14師団凱旋記念　絵葉書
1932年に満州移駐し，その後宇都宮に戻ってくる際に，その記念としてこの絵葉書が作られました。

↑❹宇都宮中央女子高等学校の赤レンガ倉庫
1908年，陸軍第14師団の設置に伴い，歩兵第66連隊の調理関係施設として建設されました。現在は，多目的ホールとして活用されています。



↓❺宇都宮市及郊外全図（大正15年11月発行）より作成
赤く塗られた部分が，第14師団の関連施設。

↑❻軍道の桜と桜通り
第二次世界大戦後は，「軍道」の名は廃されて，「桜通り」と呼ばれましたが，桜の老木化と道路の拡幅によって，桜は全て伐採されてしまいました。今は，桜通りという名前だけが残っています。

中島飛行機製作所の宇都宮進出

1942（昭和17）年に中島飛行機製作所が，現在の陽南１丁目の場所に進出してきました。工場面積は110万坪にもなり，宇都宮で最大の軍需工場でした。工場では，陸軍戦闘機「疾風」❶がつくられました。1944年には，本格的な生産を開始し，終戦までに，748機が生産されました。

→❶疾風写真
（毎日新聞社提供）

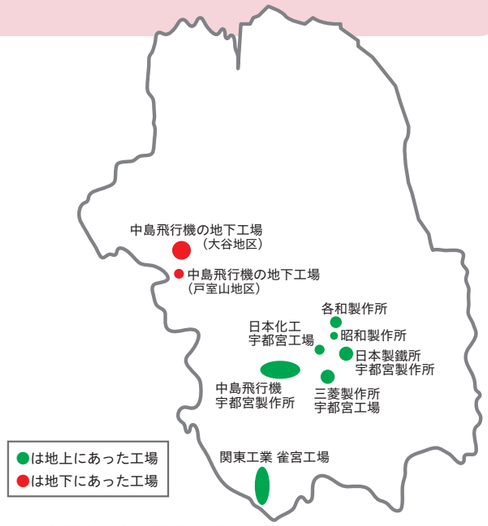
宇都宮につくられた軍需工場

宇都宮と軍需工場❶

中島飛行機製作所以外にも，宇都宮には多数の軍需工場が進出してきました。❷機関銃弾を生産する工場，大砲の砲弾を生産する工場，航空機用発射連動機の試作研究を行うための工場，機銃の部品を作るための工場などがつくられ，社宅なども併設されていました。

太平洋戦争が本格化すると，労働力の減少から，学徒勤労動員が強化され，多くの学生が工場へ動員されました。

ことば
❶軍需工場
兵器や爆薬など軍事に必要な物資の生産・修理をする工場



↑❷宇都宮の主な軍需工場

宇都宮につくられた二つの飛行場

1 中島飛行機の飛行場

中島飛行機宇都宮製作所に付属する飛行場が，工場から約1.6km南の場所（現在の台新田町）に建設されました。南北の主要滑走路に加え，冬の西風を利用した東西の冬期滑走路をあわせもつ飛行場でした。工場で生産された飛行機は，飛行場と連結している誘導路を人力で押して運ばれ，テストを行った後に，各地の陸軍飛行場に向けて飛び立っていきました。現在は，陸上自衛隊駐屯地になっています。

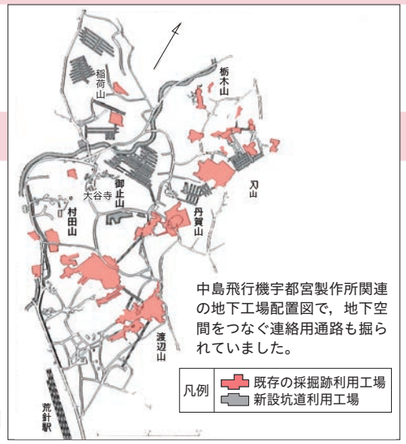
2 宇都宮陸軍飛行場

1939（昭和14）年，陸軍は宇都宮市郊外の清原村の約300haを買収しました。宇都宮陸軍飛行学校が発足し，1941年９月には，滑走路や，兵舎などを併設させた，陸軍宇都宮飛行場を完成させました。また，国鉄宝積寺駅から陸軍宇都宮飛行場までは，軍用鉄道路線が整備されました。昭和天皇や東条英機首相も訪れ，落下傘部隊と地上防衛軍の大演習も行われました。現在は清原工業団地などになっており，栃木県立農業大学校内には，飛行機を守るためにコンクリートで作られた格納庫❸が，今も残っています。

↑❸栃木県農業大学校校内に残る掩体格納庫

大谷につくられた巨大地下工場

中島飛行機製作所の創業者中島知久平は，戦局の悪化や空襲の可能性を早い時期から予想しており，地下工場建設を進めていました。宇都宮製作所も分工場が進められ，大谷地区の採石場を借り上げて地下工場がつくられました。❹面積は57,846km²，設置機械数は1,012台，就業人員8,873人で，多数の機体の部品がつくられました。



→❹中島飛行機の大谷地下工場配置図

戦時下の宇都宮

1 学校の様子

1941（昭和16）年に，国民学校令が公布され，尋常高等小学校は国民学校に改称しました。宇都宮市内では，従来の中央，東，西，簗瀬，西原，戸祭，今泉，昭和の８つの国民学校に南と北の２校が加わり，10校となりました。宇都宮市内の国民学校でも，体錬科という授業では，戦争のための訓練なども行われました。❺

現在の中学校・高等学校にあたる，国民学校の高等科や中等教育学校では，1939年ごろは教育の一環として，勤労奉仕を目的とした農作業や除草を手伝うなど勤労作業が行われていました。しかし，1941年ごろになると，食料増産強化を目的として遠方まで長い期間動員されるようになっていきました。

太平洋戦争に突入すると，大量の兵士徴用による軍需産業の労働力の減少にともなって，学徒の労働力が求められました。1944年になると，動員先が農村から軍需工場へと変わり，通年にわたって学徒が勤労動員されるようになっていきました。また，軍需品増産のために，教育の場である学校も工場となり，女学生も動員されるようになりました。

←❺なぎなたの稽古
（現在の西小学校）

学徒勤労動員 体験談

私は，1937（昭和12）年４月に西原尋常小学校（現在の西原小学校）に入学した。1941（昭和16）年になると，国民学校と名称が変わった。

1943（昭和18）年，宇都宮南国民学校（現一条中学校）に進学した。２年生の秋ごろ，中島飛行機製作所に行くことになった。六道の辻から西原小の西に出て，南にまっすぐ行くと日光線の踏み切りがあり，日光線を越すと工場の北門だった。

始業は午前８時で終業は午後５時だった。工場の第15棟で，エンジンの枠を作った。プレスで型をぬく補助と，その部品のやすりがけが仕事だった。仕事場には男の指導者がいて仕事のやり方を教えてくれた。麦飯の弁当を食べ，根気のいる辛い仕事の毎日だったが，よくやれたと今になって思うことがある。時には残業もあり，仕事が終わると黒い干しバナナを２本ほどもらえた。砂糖などは手に入らない時代であったので，バナナは甘くてたいへんおいしかった。

仕事をしていて不安だったのは，空襲だった。空襲警報のサイレンが鳴ると仕事を止め，砥上の山まで全力で走って避難した。

（『うつのみやの空襲』より）

2 市民の生活

戦争が長引き，日本国内では，物不足が深刻化していきました。政府は，「ぜいたくは敵だ」のスローガンを打ち出し国民に戦争に協力するように求めました。

宇都宮市も例外ではなく，米の配給が全国に先がけて，1940年７月から行われました（東京，横浜，名古屋，京都，大阪，神戸の６大都市での開始は1941年４月）。配給はその後，砂糖・マッチから味噌・醤油・衣類・燃料にまで広がっていきました。❻

下の写真は，宇都宮市が実際に発行した配給券です。左は「衣料切符」。中央は「家庭用必需品購入券」，右は「米穀配給通帳」です。食料や家庭での必需品はほとんど，切符や通帳による配給になっていきました。

↑❻実際に配布された配給券

宇都宮空襲で使用された爆弾

M47焼夷爆弾

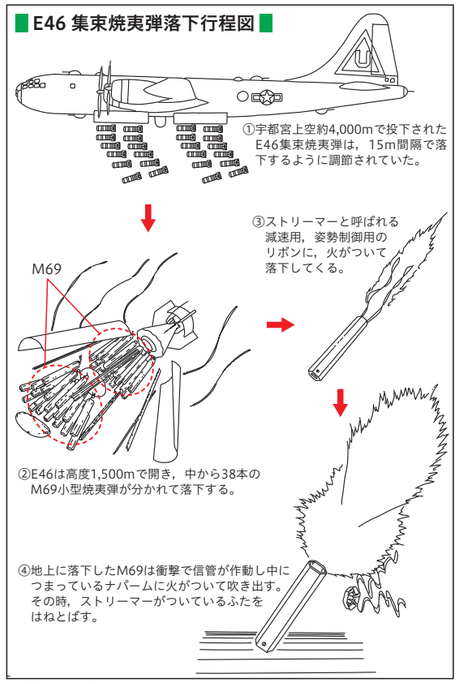
M47焼夷爆弾❶は，爆発力と燃焼力を併せ持った爆弾です。宇都宮空襲では，後に続く爆撃機の目標となるように，先行した爆撃機から投下されました。目標地域の中心に投下し，大火災をおこさせ，後続機の目印となりました。宇都宮空襲で使用された爆弾は，10,500個，総重量は約362トンでした。

→❶ M47焼夷爆弾

E46集束焼夷弾

M69焼夷弾❷を38個搭載したE46集束焼夷弾は，木造家屋が密集した日本の都市攻撃用に特に開発された焼夷弾です。M69焼夷弾の中にはナパームというゼリー状の油脂が入っており，地上に落下した衝撃で，ナパームが燃えながら広範囲に飛び散る仕組みになっています❸。宇都宮空襲で使用されたE46集束焼夷弾は2,204個，総重量は約440トンでした。

→❷ M69小型焼夷弾



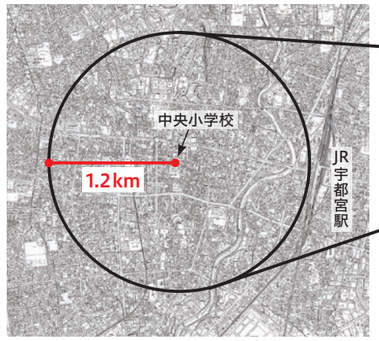
↑❸ E46集束焼夷弾落下工程図

宇都宮空襲の被害マップ

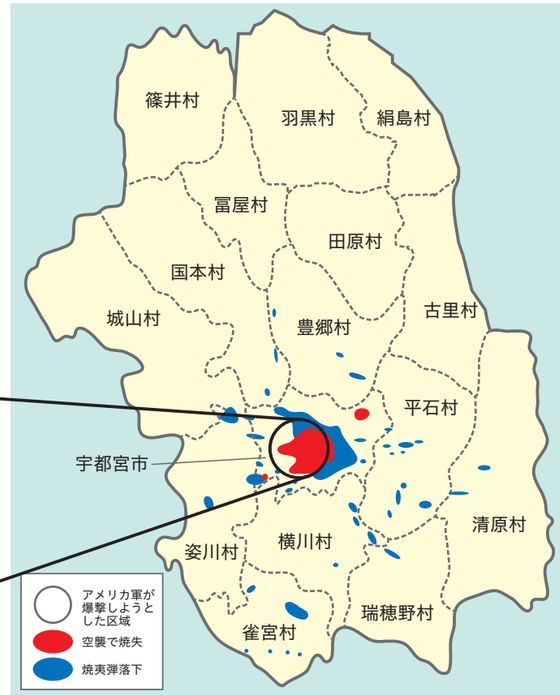
アメリカ軍による空襲計画

下の図の円は，半径1.2kmで，円の中心は現在の宇都宮市立中央小学校でした❹。アメリカ軍は，この中心点を目標として爆弾を投下した場合，約半数がこの円の中に着弾すると予想していました。実際に多くの爆弾が，円の中に着弾しました。

市街地の中心地を目標としていることからも，宇都宮空襲が特定の軍事目標ではなく，あくまでも市街地をねらったものであることが分かります。



→❹投下の目標地点



空襲体験

1 リュックを背負った姉の死

空襲 体験談

当時，私の家は大銀杏の南側にあり，私は12歳であった。毎日警戒警報や空襲警報が発令され，不安な日々を送っていた。12日の夜も外へ明かりがもれないように，電灯を傘ごと黒布でくるみ，薄暗い中で夕食を食べた。夜中の11時ごろ，騒々しい音で目を覚ました。見ると父母と3人の兄達は，家財道具を裏の沼地へ投げ入れていたので，私と姉は，二人だけで隣組の防空壕へ避難した。しばらくすると，「早く外へ出て逃げろ！」と怒鳴る声が突然聞こえてきた。私と姉は，手を取り合って防空壕の外へ逃げ出した。赤々と燃え上がる火の間から，母の姿がぼんやりと見え，私は走り寄り，泣きながら母の胸にすがりついた。しかし，いつの間にか手を離してまった姉の姿がどこにも無い。父が沼地に投げ込んでおいた2枚の畳を立て掛けて作った，三角形の「避難所」にもぐり込み，姉を待った。

やがて辺りが静かになったので，少しずつ畳の下から顔を出して，恐る恐る周囲を見渡すと，姉がすぐ近くで背中のリュックに寄りかかるようにして座っていた。「周子，何しているの？　早くこっちへおいで！」と母が声をかけたが，返事がなかった。母が医者を探し回ったが，とうとう見つからず，消防団の人にお願いして姉の様子を見てもらった。するとその人は，「死んでいます。」とすぐに告げた。私たちはなかなか信じられなかった。しかし，明かりの下で姉をよく見ると，額のはし辺りに指2本ぐらいのくぼみがあった。そしておなかの辺りには血が真っ赤ににじんでいた。焼夷弾の直撃を受けて，すでに息絶えていたのだった。次の日やっと見つけた荷車に姉の遺体を乗せ，みんなで火葬場に向かおうとしたとき，突然姉の体から血がポタポタ流れ落ち，下のコンクリートを染めた。それを見て，姉が最後の別れのしるしを私たちに残したように思えて，みんな声をあげて泣いた。

▶お姉さんが背負っていたリュックサック

（『うつのみやの空襲』より）

2 母・妹は直撃死

空襲 体験談

私の家は，当時押切橋の東約100メートルの所にあり，裏には田川が流れていた。

12日の夜，午後11時を少し回った頃，飛行機が低空飛行をしてきたかと思うと，突然大きな音がして，専売局あたりが真っ光になった。その直後に空襲警報のサイレンが鳴った。窓の外は真っ赤で，すでに火の海だった。枕元にまとめておいた防空頭巾とカバンを身に付け，すぐに避難の用意をした。母は1歳の弟を背負った。妹は自転車とリヤカーを田川に投げ入れて戻ってきた。

ちょうどその時，真上に焼夷弾が落下し，一面火が広がった。私の着ていた服もくまなく油脂を浴び，すぐに燃えだした。私は夢中で外へ飛び出し，一人で逃げた。燃えている衣服の火を田川の中に入って消し，裸足のまま走った。途中，低空で飛んできた敵機から爆撃された。近くの自転車屋の横に積んであったタイヤの陰に隠れて避けた。そして，真岡街道の踏切を渡り，砂利道を夢中で走り続け，やっと田んぼの広がる所にたどりついた。

ほっと一息ついたとき，火傷の傷の焼けるような痛みが，急に襲ってきた。私は，田んぼの隅の水のある所に行って，燃え上がる市内の光景を眺めながら，じっとその痛みに耐えていた。

空襲がやっとおさまった頃，近くの農家の倉のそばでぐったりしていた私を，近所の人が，石井街道沿いの臨時救護所に運んでくれた。そこで応急処置をしてもらった後，今泉小学校に収容され，その後，国立病院（現）にトラックで移され，そこで治療を受けた。

やがて，父が私をやっと捜しあて，病院に駆け付けてくれた。その父から聞いた直撃後の状況は，次のようであった。

悲鳴を聞いて店先に駆け付けた父は，頭髪が燃えている小学生の弟を見付け，田川の中に投げ込んで火を消した。命は助かったが，翌朝，家の焼け跡で，母と妹・幼い弟の焼死体を発見した。妹は，大事なものを入れたリュックを，両手で抱えて死んでいた。遺体は見分けが付かないほど焼け焦げていたが，体の下になって焼け残っていたリュックの中身で，妹であることが分かった。そして，側に横たわっていた焼死体も，母と弟であることが確認できた。以上のような悲しい知らせだった。

その後，入院生活は秋の彼岸のころまで続いた。今でもあの時負った傷跡は，消えること無く残っている。

（『うつのみやの空襲』より）

八幡山につくられた特殊地下壕

八幡山の地下壕▶

八幡山の特殊地下壕の建設

日中戦争がはじまると，1937（昭和12）年８月第14師団にも動員が命じられ，その後1939年７月に満州へ完全移駐となりました。その後本土決戦に備え，軍管区司令部が設置されるに伴い，栃木・茨城・群馬の三県を範囲とした，宇都宮師官区司令部が新たに設置されました。宇都宮師官区の部隊は，旧第14師団の施設を利用していましたが，各地で米軍機の空襲を受けるようになると，地下施設の必要性に迫られ，八幡山に地下司令部が建設されました。

地下司令部の建設は，1945年６月中旬から始められ，総勢250名ほどで，３交代24時間体制で行われました。八幡山のほとんどは，凝灰岩や泥岩の岩盤であるため，爆薬で爆破したのちに，ツルハシで掘り進み，土砂が運び出されました。総延長は721ｍにわたりました。

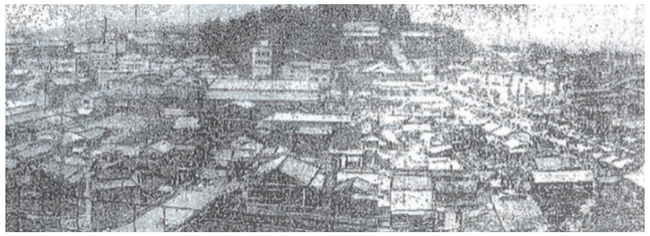
７月12日の宇都宮空襲の時も作業は継続され，終戦時は未完成で実際に使用されることはありませんでした。しかし，「米軍が進駐した時に笑われる，このままでは日本軍の名折れである」として作業は続けられ，全ての穴の貫通をもって作業は中止となりました。

←❶地下壕内には，部屋がつくられており，５部屋確認されています。作戦室や倉庫として使用予定であったと考えられています。

↓❷**現在の八幡山の地下壕の入り口部分**
壁に柱を立てるくぼみや，床には左右に側溝がつくられています。

戦後復興する宇都宮

↑❸**宇都宮市街地の復興** 1945年11月　（下野新聞社提供）



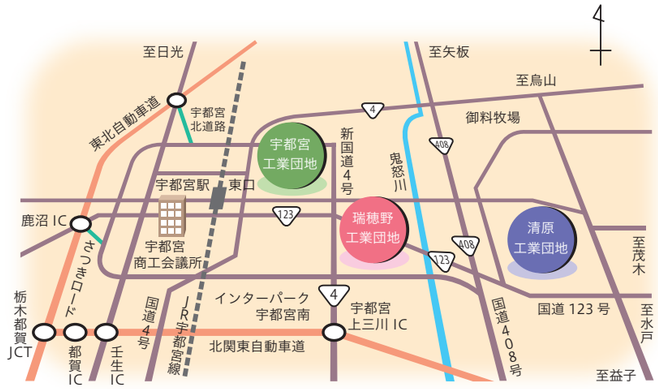
↑❹**戦災復興１年後の宇都宮** 1946年６月　（下野新聞社提供）

❸の写真は，終戦後すぐの11月に，中央国民学校屋上から，中心街を望んで撮ったものです。写真右下のバンバは焼野原となっていますが，露天商と人の姿が見られ，バンバを中心に復興していたことがわかります。

❹の写真は，❸の写真と同様の位置から撮影した，戦災一年後の写真です。バンバは戦前のたたずまいに戻り，露天の様子が見えます。大通りには，上野百貨店，足利銀行，下野新聞社の建物や，第一東宝（映画館）や建築中の民衆劇場が見えます。

宇都宮の工業団地の発展

宇都宮は，鉄道や高速道路，災害の少ない土地柄などの好条件に恵まれ，首都圏の北の拠点として成長してきました。その大きな要素となったのが，市内の３つの工業団地です。工業都市宇都宮を支える３つの工業団地を見ていきましょう。



↑❶**宇都宮工業団地**（平出工業団地）

1 宇都宮工業団地（平出工業団地）

宇都宮工業団地（平出工業団地）は，宇都宮市の東部に位置する，市内では最も古い工業団地です。業種別では，製造業が４割を超え，その他，卸売業，倉庫業，設備建築業，産業廃棄物業，商品販売業など，多様な工場があります。

↑❷**清原工業団地**

2 清原工業団地

清原工業団地は，宇都宮市の東部地域で1971（昭和46）年から開発が進んできた工業団地で，開発当時は国内最大規模を誇りました。この団地にある企業は，東京に本社を置く大手企業が大半を占めており，化学工業，電気工業機械器具製造，輸送用機械器具製造などの，最先端の技術を持つ企業が進出しています。

3 瑞穂野工業団地

瑞穂野工業団地は，製造業の近代化や高度化を図るための移転用地として造られました。この団地は，市の南東部の新国道４号線沿いに造られており，交通の利便性も良い場所となっています。近年は，製造業以外にも，サービス業や建設業，卸売・小売業などの業種も増えています。

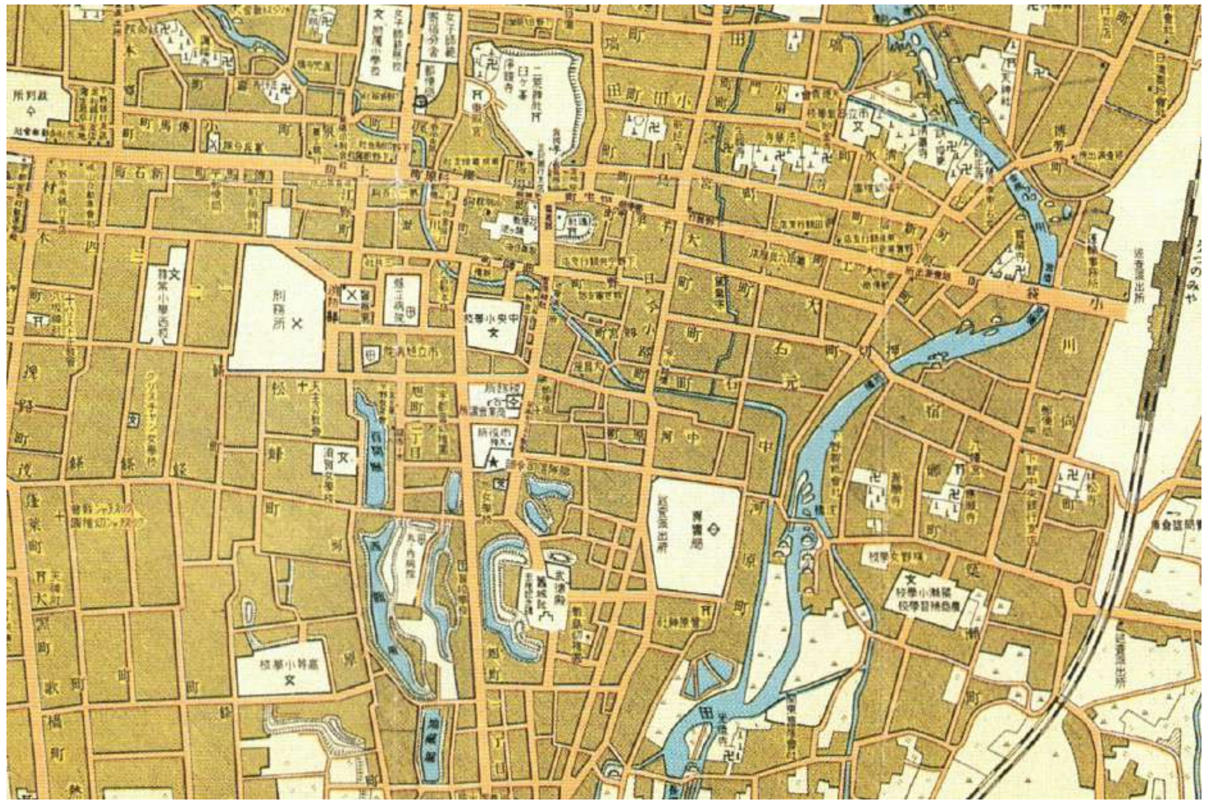
↑❸**宇都宮テクノポリスセンター地区**
産・学・住・遊の各機能が有機的に結びついている。

昔と今の地図で比べてみよう！

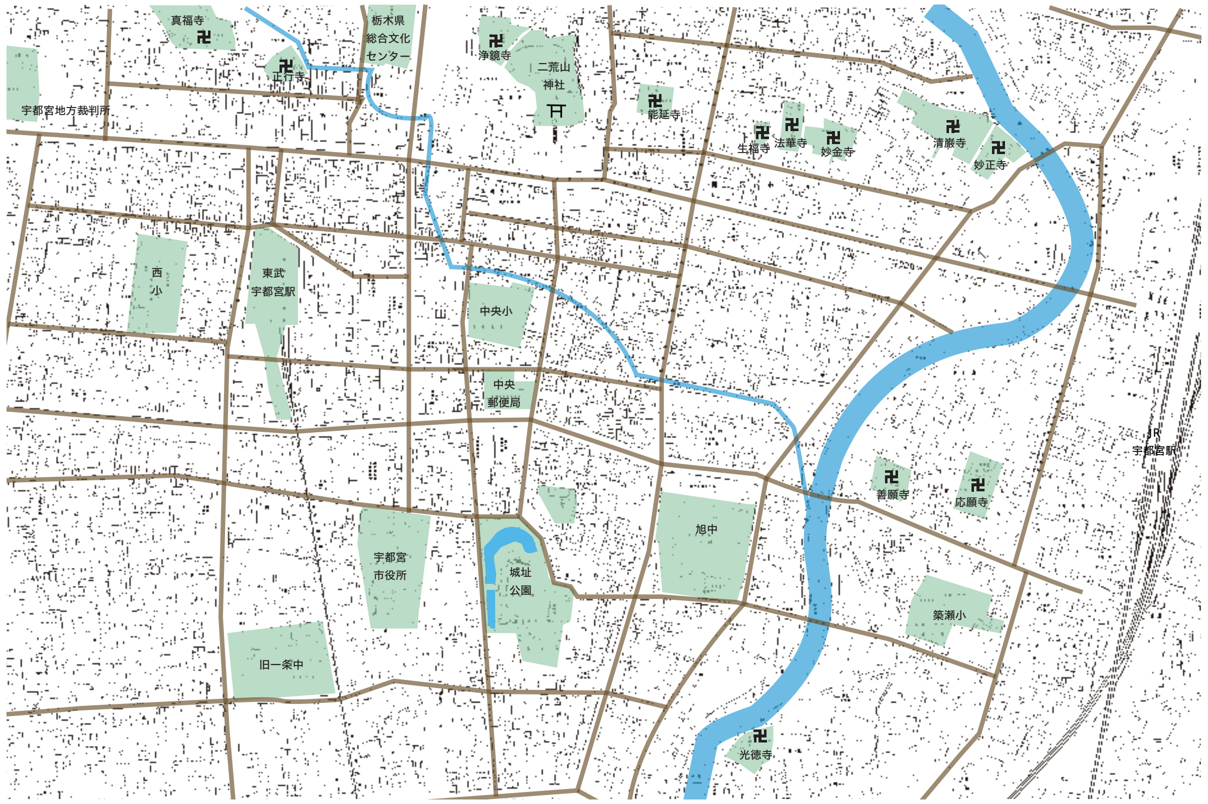
下の地図は，1926（大正15）年に発行された，宇都宮市とその周辺の地図です。当時の宇都宮の様子がよくわかります。

地図を比べてみよう ……中心部

大正15年

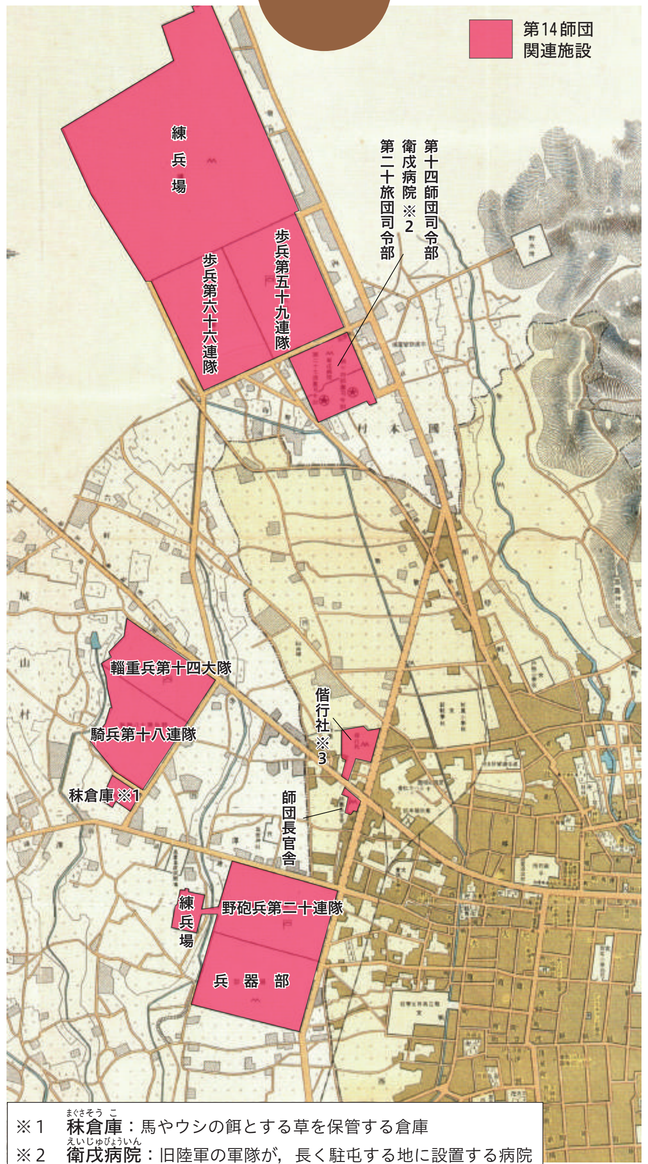


現在の地図



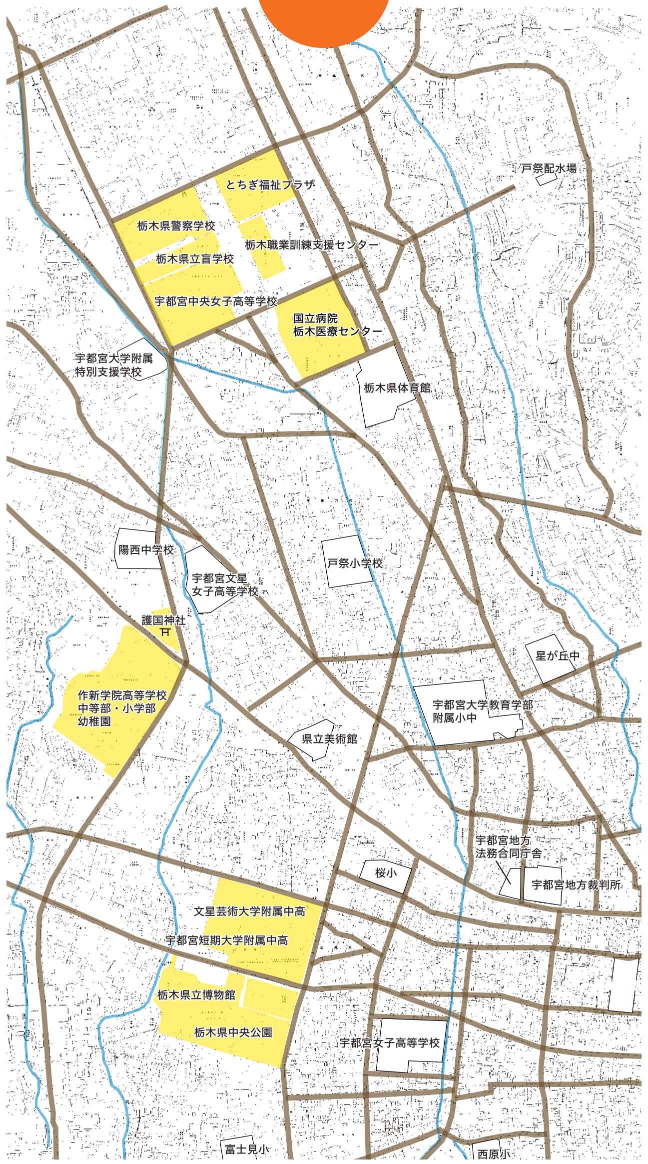
地図を比べてみよう

大正15年

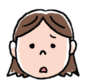


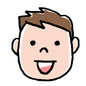
※1　秣倉庫：馬やウシの餌とする草を保管する倉庫
※2　衛戍病院：旧陸軍の軍隊が，長く駐屯する地に設置する病院
※3　偕行社：旧陸軍の将校同士の親ぼくを深める施設

現在の地図

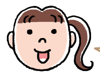


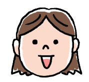
先生：地図をみて，どんなことがわかるかな？


第14師団の関連施設は，現在は，どんな施設になっているかな？55ページの現在の地図の黄色に塗られた部分が，第14師団の関連施設だったところだよ。


大正時代から，変わっていない道があるけど新しくできた道もあるね。

川は，大きく変わっていないね。


市街地が広がっているのがわかるね。


昔は，城址公園のまわりに，堀がたくさん残っていたね。

探究活動　宇都宮の歴史を紹介しよう！

STEP 1　課題を設定しよう

先生：「宇都宮の歴史」の中で，もっと知りたいと思ったことは，どんなことかな？
みんなで意見や考えを出し合い，課題を設定しよう！

家の近くにある古墳が気になっていたんだよね。
どんなものが出土しているのかな。

歴代の宇都宮氏を調べて，
年表にして他の人に紹介したいな。

城址公園はよく行くから，宇都宮城のことを調べて，海外の人に教えたいな。

宇都宮に戦争があったなんて知らなかった。
当時は，どんな様子で，どう立ち直ってきたのかを調べたいな。

先生：どこで，どんな方法で調べることができるかを考えておくといいよ。
どんな方法で，誰に向けて発信するのかを考えておくといいよ。

戦争を経験した人を知っているから，
インタビューはできると思うよ。

宇都宮の歴史を分かりやすく伝えるには，
現地調査をして，写真を撮ってきた方がいいかな。

STEP 2　調べてみよう

先生：自分たちの課題を追究するためには，どんな方法で調べたらよいかな。
計画を立てて，調べていこう。

手軽なのは，インターネットだね。
でも，情報が正しいかどうかなど
取り扱いには注意が必要だね。

市の図書館には，地域資料コーナーが
あって調べやすいよ。栃木県立博物館も
参考になるものがありそうだよ。

なんといっても，現地調査だよ。
実際に行けば写真が撮れるから，
まとめる時に役に立つよ。

インタビューをすれば，その人の思いを直接
感じ取ることができ，世界で一つの貴重な
情報になるかもよ。自分のオリジナリティを
出したいから，大変だけどやってみたいな。

先生：調べる時は安全に注意し，計画的に行ってね。
現地調査やインタビューをするときには，事前に依頼や連絡をするなど，
マナーをしっかり守ってね。

STEP 3　調べたことを整理分析しよう

先生：調べたことから，どんなことが分かるかを検討してみよう。

小学校の時に，様々な方法を使って，考えを整理したことがあるよ。
どんな方法を使ったら，上手くいきそうかな。

表やグラフにしてみたら，
どんなことが分かるかな？

みんなが調べてきたことを，付箋に書いて，
分類したら，まとめる方向性が見えるかも。

先生：いろいろな方法があるけど，宇都宮の歴史を新聞にするなら，
「ボックスチャート」「フィッシュボーンチャート」などを使うと，考えを整理しやすいよ。

STEP 4　発信しよう

先生：誰に，何を，どのように伝えるのかを考えて，
それに合った方法や内容になるよう工夫しよう。

歴史新聞を作るよ。
貼りだしておけば，大勢の人に見て
もらえる方法だよ。学校の友達も見るし，
保護者の方も見ることを考えなくちゃなー。
読み手に伝わるように，写真や表などを
意識しなくちゃ。
文章も簡潔にまとめる必要があるよ。

プレゼンテーションをするよ。
大勢の人に発表する時に，最適な
方法だよ。
画像をふんだんに使えば，見ている
人に強く訴えることができるはず。
大変だけど，ここで力をつければ，
大人になった時に大きな力になるよ。

ポスターセッションをするよ。
聞き手が近くにいて発表できるから，
その場で，会話を楽しみながらできるのが
いいところだよ。地域の人に発表する
場合は，コミュニケーションも
とりながらできるから，最適かもね。

劇やペープサートをするよ。
小学生に向けて発表するなら，最適な
方法だよ。難しい歴史を飽きさせずに，
最後まで聞いてもらうためには，工夫
することが大切だよ。時間はかかるけど，
やったときのやりがいはあると思うよ。

先生：宇都宮の歴史を紹介してみて，どうだったかな？
自分の探究活動をしっかり振り返ってみよう。

宇都宮市歴史年表　1

時代		年代	宇都宮の歩み	日本の歩み	宇都宮学
旧石器時代				人類が日本列島で生活をするようになる	宇都宮の幕開け
		約3~4万年前	落とし穴を使って狩りをする（飛山の落とし穴）		
			石器を用いた狩りを行う	石器を用いた狩りを行う	
			（瑞穂野団地遺跡，上の原遺跡）	（群馬県の岩宿遺跡，沖縄県の山下洞窟など）	
縄文時代	草創期	約12000年前	洞穴（岩陰）を利用して生活する（大谷寺洞穴遺跡）	海水面が上昇し，日本列島が現在の形になる	
			竪穴住居がつくられる（野沢遺跡）		
	早期	約10000年前			
	前期	約6000年前		青森県の三内丸山遺跡で，大規模なムラ，大型竪穴建物などがつくられる	
			拠点となるムラがつくられる（根古谷台遺跡）		
	中期	約5000年前	生活が安定し，人口が増加，大規模なムラがつくられる		
			（竹下遺跡，御城田遺跡，下西原遺跡，梨木平遺跡）		
	後期		装飾的な文様の土器がつくられる	火焔型土器がつくられる	
		約4000年前			
	晩期		気候の寒冷化が進み，ムラの規模が縮小する	土製仮面や土偶などがつくられる	
		約3000年前	（石川坪遺跡，刈沼遺跡）		
弥生時代	前期			稲作と金属器が大陸から伝わる	
				水田近くの台地に定住してムラがつくられ，クニに発展していく	
	中期		稲作や弥生土器などの弥生文化が伝わる		
		約2100年前	野沢遺跡	57年　倭の奴国王が漢（後漢）に使いをおくる	
	後期		二軒屋遺跡		
				239年　卑弥呼が魏に使いをおくる	
古墳時代	前期			古墳がつくられはじめる	
			茂原古墳群		
	中期			391年　朝鮮半島に兵を出し，高句麗と戦う	
		約1600年前			
				このころ大仙古墳がつくられる	
			東谷古墳群（笹塚古墳）	478年　倭王武が中国の南朝に使いを送る	
	後期		塚山古墳群		
				538年　仏教が伝わる	
			瓦塚古墳・北山古墳群		

時代				宇都宮氏
飛鳥時代			593年　聖徳太子が摂政になる	文武に秀でた宇都宮氏
		戸祭大塚古墳，長岡百穴古墳	604年　聖徳太子が十七条の憲法を定める	
			645年　大化の改新	
		上神主・茂原官衙遺跡		
		下毛野古麻呂が大宝律令の作成に携わる	701年　大宝律令が定められる	
奈良時代			710年　平城京に都を移す	
			743年　墾田永年私財法	
		千手観音像（大谷観音・大谷寺）がつくられる		
			794年　平安京に都を移す	
平安時代	838年	二荒山神社が現在の場所に遷される		
	927年	二荒山神社が，延喜式の中で，「下野国河内郡一座　大二荒山神社　名神大」となる		
			935年　平将門の乱（～40）	
		源頼義が戦勝祈願で二荒山神社を訪れる	1051年　前九年の役（～62）	
			1167年　平清盛が太政大臣になる	
	1189年	源頼朝が戦勝祈願で二荒山神社を訪れる	1185年　源頼朝　守護・地頭をおく	
		宇都宮朝綱が源頼朝側について戦う		
鎌倉時代			1192年　源頼朝が征夷大将軍となる	
			1203年　北条時政が執権となる	
	1205年	宇都宮頼綱が幕府から謀反の疑いをかけられ出家し，蓮生と名乗る		
			1221年　承久の乱　京都に六波羅探題設置	
			1232年　北条泰時が御成敗式目を定める	
	1235年	蓮生が藤原定家に中院山荘の障子の色紙和歌を依頼		
			1274年　文永の役	
	1281年	宇都宮貞綱が蒙古軍征伐の大将軍として出陣	1281年　弘安の役	
	1283年	宇都宮弘安式条の制定		
	1333年	宇都宮公綱が紀清両党とともに楠木正成と戦う	1333年　鎌倉幕府が滅びる	
室町時代（南北朝）			1334年　後醍醐天皇による建武の新政	
			1338年　足利尊氏が征夷大将軍となる	
	1351年	宇都宮氏綱が越後・上野の守護となる	1378年　足利義満が室町に幕府を移す	
	1380年	宇都宮基綱が茂原で小山義政と戦い戦死	1392年　南北朝が統一される	
	1405年	宇都宮満綱が長楽寺に銅像阿弥陀如来像（汗かき阿弥陀）を奉納		
	1418年	宇都宮持綱が上総の守護となる		
室町時代（戦国時代）			1467年　応仁の乱（～77）	
			1573年　織田信長が室町幕府をほろぼす	
安土桃山時代	1590年	秀吉が宇都宮に着陣し，宇都宮仕置きを行う	1590年　豊臣秀吉が全国を統一	
	1592年	国綱が秀吉の催促で文禄の役に出陣	1592年　文禄の役（～93）	
	1597年	秀吉が国綱の所領を没収　宇都宮氏の没落	1597年　慶長の役（～98）	

宇都宮市歴史年表　2

			1600 年	関ケ原の戦い	城下町　宇都宮
江戸時代			1603 年	徳川家康が征夷大将軍となる	
			1615 年	大阪の陣　豊臣氏が滅びる 武家諸法度の制定	
	1617 年	二代将軍徳川秀忠が日光社参の際に，宇都宮城に宿泊			
	1619 年	本多正純が宇都宮城主となり，城下を整備			
	1625 年	三代将軍徳川家光が日光社参の際に，宇都宮城に宿泊			
	1663 年	四代将軍徳川家綱が日光社参の際に，宇都宮城に宿泊	1635 年	参勤交代制度が定められる	
			1716 年	徳川吉宗の享保の改革（～ 45）	
	1723 年	五十里洪水により今泉・塙田などが水害により被害			
	1728 年	八代将軍徳川吉宗　日光社参の際に，宇都宮城に宿泊			
	1766 年	宇都宮藩内で大洪水で被害			
	1776 年	十代将軍徳川家治　日光社参の際に，宇都宮城に宿泊	1787 年	松平定信の寛政の改革（～ 93）	
	1808 年	蒲生君平　「山陵志」を刊行	1841 年	水野忠邦の天保の改革	
	1843 年	十二代将軍徳川家慶　日光社参の際に，宇都宮城に宿泊	1854 年	日米和親条約が結ばれる	
	1859 年	宝木用水完成する	1858 年	日米修好通商条約が結ばれる	
	1862 年	幕府が宇都宮藩による山陵修補を許可する			
	1864 年	天狗党が宇都宮を訪れる			
			1867 年	大政奉還　王政復古の大号令	
明治時代	1868 年	宇都宮藩及び官軍が旧幕府軍に敗れるが，その後官軍が宇都宮城を奪還する	1868 年	戊辰戦争（～ 69）	戦災を生き抜いたまち　宇都宮
	1869 年	戸田忠友　宇都宮藩知事となる	1869 年	版籍奉還	
	1871 年	宇都宮県が設置される	1871 年	廃藩置県	
		石井村に大嶋商舎を設立	1872 年	学制発布	
	1873 年	二荒山神社　県社に降格	1873 年	徴兵令　地租改正	
		宇都宮県を廃止し，栃木県に併合			
	1878 年	宇都宮に河内郡役所開庁	1877 年	西南戦争がおこる	
	1883 年	二荒山神社　国幣中社に復格			
	1884 年	県庁が栃木から宇都宮に移転			
	1885 年	宇都宮駅開業　東北本線大宮・宇都宮間が開通	1885 年	内閣制度が創設される	
	1889 年	宇都宮町制を施行　人口 3 万 5234 人	1889 年	大日本帝国憲法が発布される	
	1896 年	市制施行	1894 年	日清戦争がはじまる（～ 95）	
	1897 年	人車軌道（宇都宮軌道運輸会社）が開業			
			1901 年	八幡製鉄所操業開始	
	1902 年	栃木県内で大暴風雨	1904 年	日露戦争がはじまる（～ 05）	
	1906 年	宇都宮市内に電話が開通	1905 年	ポーツマス条約が結ばれる	
	1907 年	第 14 師団司令部の設置が決定			
	1910 年	大暴風による被害を受ける	1910 年	韓国併合	
	1912 年	宇都宮瓦斯株式会社設立　ガスの供給が始まる			
	1916 年	上水道の給水が始まる	1914 年	第一次世界大戦に参戦	
大正時代	1919 年	第 14 師団がシベリア出兵	1918 年	米騒動がおこる	
			1920 年	国際連盟に加盟	

			1923 年	関東大震災	
			1925 年	男子普通選挙が成立，　治安維持法が発布	
昭和時代	1931 年	東武宇都宮駅開業　東武鉄道宇都宮線開通	1931 年	満州事変がおこる	
			1937 年	日中戦争がおこる	
			1938 年	国家総動員法公布	
			1941 年	太平洋で戦争がはじまる（～ 45）	
	1943 年	中島飛行機宇都宮製作所が横川村に開所	1944 年	本土空襲がはじまる	
	1945 年	空襲を受け市街の大半を焼失	1945 年	広島・長崎に原子爆弾投下 ポツダム宣言受諾　降伏	
	1947 年	人口が 10 万人をこえる	1946 年	日本国憲法が公布される	
	1951~55年	町村合併（平石・清原・横川・瑞穂野・豊郷・国本・城山・冨屋・篠井・姿川・雀宮）	1951 年	サンフランシスコ平和条約 日米安全保障条約が結ばれる	
			1960 年	日米安全保障条約の改定	
	1961 年	宇都宮工業団地（平出工業団地）の分譲が開始	1964 年	東京オリンピック大会開催	
	1972 年	東北自動車道　岩槻・宇都宮間が開通	1972 年	札幌冬季オリンピック大会開催 沖縄諸島が日本に復帰	
			1973 年	石油危機	
	1974 年	清原工業団地の分譲が開始			
	1977 年	瑞穂野工業団地の分譲が開始			
	1980 年	新 4 号国道が開通　宇都宮タワーが完成			
	1982 年	東北新幹線大宮～盛岡間が開業			
	1984 年	清原工業団地内で「'84 とちぎ博」を開催			
	1986 年	市の木に「イチョウ」を制定			
			1987 年	日本国有鉄道が分割民営化される	
平成時代	1991 年	うつのみや遺跡の広場開園	1991 年	ペルシャ湾岸戦争	
			1995 年	阪神・淡路大震災	
	1996 年	市制 100 周年を迎える　中核市となる 宇都宮美術館開館 宇都宮環状道路（宮環）全線開通	1998 年	長野冬季オリンピック・パラリンピック大会開催	
	2005 年	飛山城史跡公園開園			
	2006 年	市制 110 周年を迎える			
	2007 年	市町合併（河内・上河内），人口が 50 万人をこえる			
	2011 年	北関東自動車道全線開通	2011 年	東日本大震災	
	2016 年	市制 120 周年を迎える			